



# ファイブウレタンU100

万能形ポリウレタン樹脂塗料の代名詞。  
硬化剤を替えることで用途が広がります。

JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 A種 上塗り塗料 3級  
JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 3級  
「低汚染ファイブウレタン」[弾性ファイブウレタン]「防錆ファイブウレタン」は JIS K 5659 対象外になります。(JIS K 5659 は製品には表示されません)

ファイブウレタン U100 (つや有り)

本製品には当社工場にて製造、もしくは調色した JIS 表示品 (JIS K 5658) と店頭調色していただくための JIS 非表示品があります。  
JIS 表示が必要な場合は注文時のその旨をご指示ください。  
なお JIS K 5658 表示対象品はつや有りのみとなります。

JIS A 6909 建築用仕上塗料	可とう形改修塗料 E/RE * (DAN フィラーリフレックスの場合)、複層塗料 E/RE/SI 上塗料 (ファイブウレタンU100: 耐候形2種相当)
	可とう形改修塗料 RE * (DAN フィラーエポの場合)、防水形複層塗料 E/RE 上塗料 (弾性ファイブウレタンU100: 耐候形2種相当)

\*可とう形改修塗料 RE の場合は、適用主材が限定されます。

## ■特長

### ①高耐候性

ウレタン架橋による緻密な塗膜を形成し、高い耐候性を有します。

### ②低汚染性※

独自の親水化技術により、すぐれた低汚染性を有しています。  
※専用の低汚染形硬化剤を使用した場合に限りです。

### ③防錆性※

ポリウレタン樹脂系上塗料の耐候性と、鉛・クロムフリーさび止めペイント (JIS K 5674) 相当の防錆性を有しています。  
※専用の防錆形硬化剤を使用した場合に限りです。

### ④防藻・防かび性

藻・かびの発生を抑え、建物の美観と清潔な環境をまもります。

### ⑤すぐれた仕上がり性

かぶり (隠ぺい性) が抜群で、肉持ちの良い塗膜が得られます。

### ⑥ターペン可溶ですぐれた塗り替え適性

塗料用シンナー A で希釈するタイプですので、改修時に下地を気にせず安心してご使用いただけます。また、臭気がやわらかく、作業環境にもやさしい塗料です。

### ⑦幅広い素材適性

外壁、鉄部、FRP、硬質塩じ部、木部などの新設、塗り替えと幅広く使用できます。

### ⑧透湿性

水蒸気透過性にすぐれており、結露から建物をまもります。

## ■用途

戸建住宅・マンション・商業施設など

## ■適用下地

セメント素地 (コンクリート・モルタル) / 金属 (鉄面・亜鉛めっき面・ステンレス・アルミ) / 木部 / カラー鋼板

## ■主な適用下塗り塗料

- ニッパパーフェクトフィラー
- ニッパパーフェクトサーフ
- ニッパパーフェクトプライマー
- ハイボンファインプライマー II
- ニッパアンダーフィラー弾性エクセル
- ニッパDANフィラーエポ<sup>注1)</sup>
- ニッパ1液ファイブウレタンU100木部下塗り<sup>注2)</sup>

注1) 弾性ファイブウレタンU100の場合に適用可能です。

注2) 「ニッパ1液ファイブウレタンU100木部下塗り」は、エポキシ樹脂塗料であるため「ファイブウレタンU100」とは混合できません。

※上記以外にも使用できる塗料がありますので、詳細についてはお近くの営業所までお問い合わせください。

## ■適用主材

- ニッパタイルラックEMA-Sベース100K
- DANタイル中塗りRホワイト<sup>注1)</sup>・DANタイル中塗りSホワイト<sup>注1)</sup>
- ニッパタイルラック1液EPO-Sベース
- ニッパタイルラックシリカ-Sベース II

## ■標準塗装仕様 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg / m <sup>2</sup> / 回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地改修工事	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						

### ●コンクリート・モルタル面 微弾性フィラーを用いた改修塗装仕様

下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を入念に除去する。砂じん、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20 ~ 0.45	4時間以上	水道水	3 ~ 8	ウールローラー
			0.50 ~ 0.90			1 ~ 5	砂骨ローラー
上塗り①	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	2時間以上	塗料用シンナーA	5 ~ 10	ウールローラー・エアレススプレー
上塗り②	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	-	塗料用シンナーA	10 ~ 15	ウールローラー
						5 ~ 10	エアレススプレー

※ニッパパーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が早まるような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することを推奨します。  
(作業性や仕上りの向上を更に図ることができます。)

### ●一般鉄部改修仕様

下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を入念に除去する。さびは電動工具や、サンドペーパー、研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り <sup>注)</sup>	ハイボンファインプライマー II	1	0.16 ~ 0.18	4時間以上7日以内 <sup>※1)</sup>	塗料用シンナーA	0 ~ 10	ウールローラー
上塗り①	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	2時間以上	塗料用シンナーA	0 ~ 5	エアレススプレー
						5 ~ 10	ウールローラー・エアレススプレー
上塗り②	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	-	塗料用シンナーA	10 ~ 15	ウールローラー
						5 ~ 10	エアレススプレー

※1) 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

注) 一般鉄部には上記のさび止め塗料以外に、ハイボン20デクロ、1液ハイボンファインデクロ、速乾PZヘルゴンエコ、パーフェクトプライマー、エスパワーンエースも使用できます。

注) さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なクレン後、下塗り塗料 (さび止め塗料) で部分補修塗りをしてから下塗りしてください。

※防錆形ファイブウレタンU100での塗り替えもできます。

注) 公共建築工事標準仕様書 DP 塗りに基づく場合は、上塗り一回目 (中塗り) として「ファイブ中塗り DP」をご使用ください。詳細については最寄りの営業所までお問合せください。

■塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率 (%)		使用量 (kg / m <sup>2</sup> / 回)	ポットライフ (23℃)
					はけ、ウールローラー	エアレススプレー		
ニッペ ファインウレタンU100	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kgセット (塗)13.5kg (固)1.5kg	塗料用シンナー A	5 ~ 10 (1回目) 10 ~ 15 (2回目)	5 ~ 10 (1回目) 5 ~ 10 (2回目)	0.12 ~ 0.17 (はけ、ウールローラー、 エアレススプレー)	10 時間
ニッペ 弾性ファインウレタンU100			4kgセット					10 時間
ニッペ 低汚染形ファインウレタンU100			(塗)3.6kg (固)0.4kg					8 時間
ニッペ 防錆形ファインウレタンU100								10 時間

- ・2液形のため、「塗料液：硬化剤＝9：1（重量比）」に混合し、十分にかき混ぜてください。
- ・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数調整してください。
- ・ファインウレタンU100の硬化剤を専用硬化剤にそれぞれ替えるだけで、特性を付与することができます。
- ・JIS A 6909 仕様の組み合わせなど詳細については、お近くの営業所までお問い合わせください。

■塗り重ね乾燥時間

	5 ~ 10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	8 時間以上	2 時間以上	1 時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。）

1. [3～7分つや有り仕上げ] の場合、上塗りの1回目に「つや有り」、2回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
2. 暑熱されやすい素材（軽量モルタル、ALC、窯業サディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した【高断熱型外壁】で、旧塗膜が弾性シリン、弾性スタッコ、アクリル樹脂などの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥れていることがあります。そのまま塗装すると剥れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また【高断熱型外壁】に塗装する場合は、暑熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なること、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。
3. 希釈用シンナーは塗料用シンナーAをご使用ください。冬季など乾燥が早いときは、塗料用シンナー SA もご使用いただけます。
4. FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整（目直し）を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合があるので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
5. 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
6. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
7. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を十分に通して塗装してください。
8. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
9. つや調整品では被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
10. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かきはんしながらご使用ください。
11. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
12. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件など影響で、本来の低汚染機能が現れない場合があります。
13. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
14. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者への配慮をお願いいたします。
15. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダシ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
16. 異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを覆ってラインや帯などが変色（ブリードにより）する場合がありますのでご注意ください。
17. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する必要があります。
18. 結露の著しい箇所では、JIS K 5629（鉛酸カルシウムさび止め）の上には、塗装を避けてください。
19. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
20. 硬化剤は湿気硬化しますので密栓して貯蔵してください。
21. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
22. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるとおそれがある場合は、塗装を避けてください。
23. 旧塗膜が塗料用シンナーで容易に溶解するつや有り塗料の場合は、縮みや剥れが発生するおそれがあるため、塗装を避けてください。弱溶剤1液形塗料や水性塗料での塗り替えをお奨めします。
24. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄面としてください。付着層をおさすおそれがあります。
25. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
26. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
27. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を削し溶剤剥れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
28. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラー、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。
29. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
30. やにが着く付着している場合は、ウエスなどで水を拭き取って除去し被塗表面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め効果が向上します。少く、あくは止まりにくい場合（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め効果が向上します。
31. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケツ科科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケツ科科学社製H500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
32. 表面のみ、ほこり、エプロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目直し、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
33. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系


■安全衛生上の注意事項

**ニッペ ファインウレタンU100ホワイト塗料液**

**横倒禁止**

1. 使用前に取扱説明書を手事すること。2. 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。3. 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざかること。禁煙。4. 容器を密閉しておくこと。5. 容器を接地しアースをすること。6. 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。7. 火花を発生させない工具を使用すること。8. 静電気放電に対する措置を講ずること。9. 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。10. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分にすること。11. この製品を使用するとき、飲食または喫煙をしないこと。12. 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。13. 環境への放出を避けること。14. 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面罩を着用すること。15. 本来の用途以外に使用しないこと。16. 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。17. 特別な処置が必要である。18. 目をすすぐこと。19. 漏出物を回収すること。20. 吸入した場合は：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。21. ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。22. 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。23. 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。24. 火災の場合：消火するために適切な手段を使用すること。25. 皮膚又は髪に付着した場合は：直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。26. 容器からこぼれた時には、布で拭き取った水を張った容器に保管すること。27. 脱着して保管すること。28. 換気の良い場所へ保管すること。涼しいところに置くこと。29. 直射日光や水濡れは厳禁。30. 塗料の缶の重みは3段までとする。31. 容器は、つり上げないこと。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意すること。（荷重になることと取っ手が外れ、落下事故の危険がある。）32. 屋外で使用する場合は、使用する場所に隣接する家屋の換気口、空気取入口等に目張りをするなどして、蒸気、ガス等が室内に入らないようにすること。33. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。34. 塗料、容器、塗料を廃棄する時には、産業廃棄物として処理すること。容器、塗料具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すことと環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者へ処理を依頼すること。

\*上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示と異なる場合があります。■詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

<b>危険</b>	<b>危険有害性情報</b>
	引火性液体及び蒸気/皮膚刺激/強い眼刺激/発がんのおそれ/生殖能又は胎児への悪影響のおそれ/臓器の障害のおそれ/長期間にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害/長期継続的影響によって水生生物に毒性

**日本ペイント株式会社**

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 北海道支店 ☎011-370-3101   | 近畿支店 ☎06-6455-9320 |
| 東北支店 ☎022-232-6711    | 中国支店 ☎082-281-2180 |
| 関東支店 ☎03-5479-3614    | 四国支店 ☎0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 | 九州支店 ☎092-751-9861 |
| 中部支店 ☎052-461-1960    |                    |

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright 2022 NIPPON PAINT Co.,Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>